

第30回 支店長のわがまち紹介

茨城県結城市

結城紬で和装文化の発信と、メリハリのあるまちづくり

着物の良さを広めるイベント「きもの day 結城」(写真提供：結城市)

茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第30回は、結城市です。筑波銀行は、市内に1カ所2カ店の営業店を設置し、結城市の皆さまと密接な関係を築いています。結城支店長の井坂謙司が、前場市長、石浜副市長、久保野谷公室長にお話を伺いました。

●結城市が一番と考えていること、自慢できることはなんですか

紬のふるさと結城市は、都心から約70km圏にあり、栃木県との県境に位置しています。

JR結城駅北口の市街地は、中世にこの地を治めた結城氏がつくり上げた城下町の町割りが残り、結城氏の菩提寺であった孝顕寺などの寺社や、明治初期から大正にかけて建てられた蔵造りの建物が点在し、紬問屋が並ぶ味わいある町並み散歩が楽しめます。

本場結城紬は、日本を代表する最高級の絹織物で、製法は代々受け継がれ、平成22年にユネスコ無形文化遺産に登録されました。風合いが良くて温かく軽い着心地で、江戸時代には名品として全国に知られるようになりました。本市は、毎年11月中旬に和装文化を広めるためのイベント「きもの day 結城」を開催しており、思い思いの着物をまちを散策し、非日常を楽しんでもらっています。結城紬の着心地体験もあります。多くの人に「きもの day 結城」に参加してもらい、着物を着ることを定着させたいのです。着る機会、見る機会があることは意識の浸透に役立ちます。平成27年6月からは結城紬の着物の貸出も始め、随時結城紬を着て市内散歩を楽しめるようになりました。古くからの商業のまちである特徴を活かし、いろいろな仕掛けをしていきます。

本市の子どもたちにも着物を着る機会を持たせるため、中学2年生で着物を着る授業を導入しまし

た。結城紬のふるさとに生まれ育ったアイデンティティを確立させ、郷土愛を醸成することがねらいです。子どもたちにも非常に好評で、「大人になった気分」などと、感想をいきいきと語ってくれます。

市の北西部の市街地と結城駅の南側の市街地は区画整理事業による整備が進み、新しい住宅街が形成されています。国道50号線沿線には多くの商業施設や飲食店が建ち並び、生活の利便性が向上するなど、住みよいまちづくりの推進によって、この地域の人口は増加しています。

●今後の展望についてお聞かせください

均衡ある発展を推進し、「小さくとも きらりと光る まちづくり」を掲げ、「みんなでつくる 活気と風情のある快適なまち・結城」の実現を目指します。そのための運営の柱は以下の3点です。

1つ目は、「子どもたちが成長しやすい環境づくり」です。本市の宝である将来を担う子どもたちが健やかに成長し、安心して暮らすことのできるまちづくりを進めます。妊娠・出産から子育てまでの支援体制づくりとして、妊産婦や子どもの医療費の一部を補助し、子育て世代の経済的負担を減らします。このマル福制度は、今年度から、対象年齢を18歳まで拡大しました。そのほか、国に先駆けて小学2年生から英語の授業を充実させました。子どもたちが、いち早く英語の基礎や国際感覚を身につけられるよう、来年度は小学1年生から導入します。さらに、鹿窪運動公園多目的運動場を、子どもたちが伸び伸びとプレーでき



前場市長



石浜副市長



久保野谷公室長



井坂支店長

るサッカー場として活用できるよう整備します。

2つ目は、「市の発展の核となる拠点づくり」です。防災、産業、教育など各分野の発展の核となる「拠点」を市内各地域につくり、全市が均衡して発展するまちづくりを進めます。まず、防災拠点としての市庁舎の新設移転を進めます。また、災害時の情報伝達手段として、防災行政無線システムを平成28年度までに市内全域に整備し、災害情報などを素早く提供する計画です。

産業分野では、産業基盤の整備や雇用の場を確保するために、上山川北部地区に新たな工業団地の開発を進めます。そのほか、山川不動尊周辺地区に市南部地域の交流拠点の整備を進めます。参詣者が休憩や地元の農産物などを購入する拠点です。また、結城紬の振興を図り、見世蔵の町並みやイベントなどを活用し、観光を活性化させます。結城紬は文化であり観光資源でもあります。存続のためにも販売量を増やす必要がありますので、高価なものとして価値が認識されていることを活かした新たな市場の開拓も視野に入れて取り組みます。

教育分野では、老朽化した市立公民館の整備を進め、公民館事業の全市的な展開のため、各地域に分館を設置し、市民の生涯学習を推進します。

3つ目は、「安心・安全な住みよいまちづくり」です。子どもから高齢者まで、全ての市民が安心・安全に暮らせるまちづくりを進めます。定住人口を確保するため、土地区画整理事業と良質な宅地整備に投資をして事業を進めたことが実を結び始めました。4か所の区画整理事業を行い、新しい



結城駅南側には良好な市街地が広がる。(写真提供:結城市)

住民が住むようになり、人口と世帯数の増加がその成果です。さらに良好な市街地の形成のため、下り松中央公園と道路の整備を進めます。

加えて、農産物搬出の効率化や荷傷み防止のため、農道の整備と農作業の機械化も促

進みます。農家の大規模化が進んで一区画の農地が広く、大型農機で作業して、収穫後は大型トラックに積み込んで出荷します。収穫したての新鮮なうちに出荷しないと地域間競争に勝ち残れません。規模を拡大した農家は充分収益があがり、後継者が育っているところも多いと聞いています。

また、古河市に移転する日野自動車の工場の従業員の居住地として本市を選んでもらえるようPR活動をしています。居住地を選ぶ条件に、住宅事情と教育水準をあげる人が多く、結城紬を活用した情操教育は居住地選択のメリットとなります。県境であることも、筑西市、古河市、栃木県の進学校に通学できるメリットです。本市が住みやすいことは、日野自動車の従業員向けの住宅誘致バスツアーの際、スーパーマーケットが多くて買い物に便利で、道路の渋滞もなく、結城市民情報センターとゆうき図書館、市民文化センターアクロス等の文化施設が充実していると高く評価されました。同時に、子どもたちが住宅地から各施設へ行くための交通手段が充実しているとなお利用しやすいとの指摘もありました。

他にも、若い世代を呼び込むための施策や、友好都市である小山市をはじめとした近隣市町との連携を図る定住自立圏の形成を目指します。

●筑波銀行に期待することはありますか

地域経済と市民生活の利便性の向上と、東日本大震災からの復興には今後とも取組んで下さい。

本市の地方創生のまち・ひと・しごとの計画は、結城紬を核としているので、結城紬の輸出販路確保などに、金融機関の知恵を借りてビジネスマッチングすることも考えています。

また、日野自動車の従業員が住宅を求めた際、例えば、本市の利子補給によって金利が軽減される住宅ローン商品の開発を検討して下さい。本市と金融機関がタイアップして地域住民の利便性を高める活動を進めたいのです。さらに、茨城県西地域及び本市の住みよさのPR活動への協力をお願いします。

(文責：筑波総研株式会社 主任研究員 國安 陽子)